

「新学習指導要領」の趣旨を活かした、令和型単元計画と英語科学習指導案

日 時：令和8年10月7日（水） 5校時
 学校名：神戸市立太山寺中学校
 対 象：2年3組34名（男子18名 女子16名）
 会 場：体育館
 指導者：井田 昌宏（OTE）・Fellores Juanito Facto(ALT)

I 単元について（「生徒が英語を使って何ができるか」に特化し、「つけたい力」を身につけるための指導と工夫）

単元（題材）名	Unit 4 “What is important in a homestay?” (NEW HORIZON English Course) 東京書籍		
学習指導要領に関連する領域別目標	I 目標（4）話すこと（発表） イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりある内容を話すことができるようにする。		
単元（題材）の目標 前任のALTの先生が1 学期に1回、日本の 学校生活が理解が できなかった困り感から 変更をした。	（1）既習の表現を用いて、事実や考え、気持ちなどを伝え合うことができる <div>【知識・技能】</div> （2）新しいALTの先生の国の生活を知り、日本での生活についてALTの先生が今後の日本での生活にプラスになるために、事実や考えを整理し、伝えることができる <div>【思考・判断・表現】</div> （3）相手にわかりやすく伝わるように、事実や考えを伝え合おうとしている <div>【学びに向かう力、人間性】</div>		
生徒の実態	<div>知識・技能</div> 既習の文法事項を理解し、それらを使って表現することができる生徒が増えてきたが、単語だけで伝えようとする生徒もいる。 ※授業後の課題として、授業中にキーワードをもとに行った。各自の発表ややり取りの内容を英文で書かせ、添削をし、授業でよくある間違いをフィードバックしている	<div>思考・判断・表現</div> 自分の考えやその理由を述べることはできるが、話に沿った質問をする質問力が今後の課題となる。また掘り下げられた内容を聞かれた際に、的確な答えを即興で返すことを苦手としている。 ※マッピングを共有し、キーワードをもとに質問を作り、更新する活動をしている。	<div>主体的に学習に取り組む態度</div> 活動に対して、意欲的に取り組む生徒が増えてきた。前向きに基本文の習得をしようとする生徒が多い。しかし、自分の意見に自信を持たず、粘り強く取り組むことができない生徒もいる。 ※発表後にペアまたはグループ内でアドバイスをもらう時間を確保するようにしている。
単元（題材）設定の理由	（1）生徒観 本学級は明るく活発な生徒が多い。ペアワークやグループワークに積極的に取り組むことができる生徒が増えてきた。しかし英語に対する苦手意識を持つ生徒もいるため、学習意欲に差がある。 ここまでの授業において、できるだけ「自分ごと」になるように、トピックを調整し続けてきた。生徒に身近な事象につなげて掘り下げ、協働学習が展開できるようにしたい。		

テーマ
 「What is important in a homestay?」から変更
 しています。これは単元の
 学習内容を「自分ごと」と
 とらえさせるため

(2) 教材観

本単元「What is important in a homestay?」では、異文化環境での生活マナー、コミュニケーションの大切さや難しさなどについてさまざまな気づきの場面があり、9月から新しく ALT の先生が来る時期でもあるため、日本での学校生活を発表すること、ALT の先生に伝える力を育成することを目指す。ALT の先生にインタビューをしてフィリピンと日本の違いについて比較して話をさせることで「話すこと（やりとり）」の育成や、これまで学んできた文法や表現を実際の場面で活用することで「話すこと（発表）」の育成を図る。

(3) 指導観

本単元の目標を達成するために9月までに指導してきたことは大きく3点ある。

1点目は「基本的な英文を作る力」を高めるために、帯活動として基本文トレーニングに取り組んできた。ペアを組み、相手の質問に即答できるようにトレーニングを行ってきた。生徒はこれにより、簡単な文を使って自分の考えを応答することができるようになった。しかし、まだまだ改善の余地があるため、今後も取り組みを続ける。

2点目は思考ツールを使用し、「自分の考えや意見を広げ、整理する力」を高める取り組みを続けてきた。生徒はこれにより基本文トレーニングで身につけてきた表現を活用し、トピックに対する自分の意見を順序だてて伝えることができるようになってきた。今後、関連する質問ができるように練習を重ねる必要がある。

3点目は「話すこと（発表）」や「話すこと（やりとり）」を高める上で、自己調整の時間を確保することに努めてきた。発表やペアワーク、グループワークでやりとりを行った後に、自分が言いたかったが言えなかった表現や、他者の発表等を見た後に、良い例を自分の発表に取り入れるなど、自分の英語を改善することができるように取り組んできた。

単元（題材）の評価 規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>知識 have to, don't have to や must などの（準）助動詞と動名詞の意味・用法を理解している。</p> <p>技能 学んだ文の構造の知識を活用し、日本の生活習慣や生活マナーを説明することができる。</p>	<p>新しい ALT の先生の出身の国（フィリピン）と日本の学校生活やルールの違いを、ALT の先生へのインタビューを通して、情報を収集・整理し、簡単な語句や文を用いて表現することができる。</p>	<p>新しい ALT の先生の出身の国と日本の学校生活やルールの違いについて、事実や自分の考え・気持ちなどを整理して、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。</p> <p>ペアワークやグループワークにおける、仲間の良い発表ややりとりを参考にしながら自分の英語に取り入れようとしている。また ALT の先生からもらったアドバイスを踏まえて、より積極的に自分の英語の改善をしようとしている。</p>

2 単元の指導と評価の計画（全 10 時間）

時間	学習内容		【評価の観点】 評価規準	学習目的（■）と主な学習（言語）活動（○）
	帯活動	学習内容		
10	帯活動なし	単元を通して学んだことを生かし、太山寺中学校の学校生活やルールについて発表する。終われば、聞いている生徒からの質疑応答を行う。	<p>【話すこと（発表）】</p> <p>ALT の先生に日本の学校生活やルールについて ALT の先生に向けてスピーチを行う。</p>	<p>事後活動：スピーチした内容を英文に起こす。Teams の課題機能を使って提出</p> <p>⑤ふりかえり</p> <p>単元前と単元後と比較して、何ができるようになったのか、次の課題は何かをワークシートを使ってふりかえる。またフィリピンの学校で体験してみたいと思ったことについても記述する。生徒の考えや価値観もあげたわ</p> <p>■単元の最後として、これ以降の Unit につながるように、さらにもう一步踏み込んだ発問をふりかえりの中で行うことで、次の思考の深さにつなげたい。</p> <p>④OTE・ALT からフィードバック</p> <p>生徒の具体的に良かった点を挙げて、他者参照を行えるようにする。また ALT からは知らなかった日本の生活習慣やマナーについても取り上げてもらう。</p> <p>■次の Unit の目標が「太山寺中学校の取り入れたいユニバーサルデザイン、または新たに不便を解消できるユニバーサルデザインを考えて伝え合う」であるため、その発表において今回の発表の良かった点や課題を生かすことができるように、フィードバックを行っていく。</p> <p>③発表と質疑応答 次の unit とのつながり、</p> <p>それぞれの発表に発表者からの問いかけと発表後に質疑応答の時間を設ける。</p> <p>■生徒の実態にもあるように、質問力を育てたいため、相互の質問の時間を設ける。</p> <p>②発表時のルールを確認する</p> <p>①授業の流れと目標の確認</p> <p>Teams で PowerPoint を作成して発表を行うが、電池残量や当日の不具合等の対策として前日までに Teams に提出をさせる。</p> <p>第 1 時で配布したプリントにループリックが載っているので、再度確認を行う。</p>
				<div>主体的な学び</div> <div>対話的な学び</div> <div>深い学び</div>

9	3 択ペア チャット	中間発表 発表本番に向けての 中間発表を行う。	【話すこと（発表）】 事実や自分の考えを整理したマッピングをもとに簡単な語句や文を用いて伝えることができる。 自己調整を図り、自分の発表を改善することができる。	⑦ふりかえり 他の生徒のスピーチを聞いて、自分のスピーチに生かせることをさがす。 ⑥本番に向けた作戦タイム ■最終の自己調整の時間をとることで、最後まで粘り強く改善する姿勢を育てる。 ⑤グループメンバーからのフィードバック お互いに改善した方がいいところや、もっと知りたいところなどを敢えてコメントする。 ■相手の改善した方が良い点を述べることで、自分のスピーチについてさらに良くしたいという気持ちを持ち、次の作戦タイムにつなげる。 ④3 人グループでの中間発表 ■3 人グループにすることで、多くのフィードバックをもらえることを目的としている。ここまで自分の伝えたいことが固まってきていることから、さまざまな意見を取り入れることで、気づきと思考の広がりへつなげる。 ③フィードバックに必要なメモの取り方の説明 ②本番のルーブリックの確認 ①3 択ペアチャット 「What do you want to know about the Philippines?」「①about school ②about daily life ③about culture」 ■3 択ペアチャットを選択しているのは、最後のスピーチの後に、ルールや生活だけではなく、国際的な視野を持ち、さらなる思考へつながることを意図している。その3つのなかに about school としているのは、英語を苦手としている生徒は、現在のトピックで選択しやすいように取り入れた。なるべく①以外を選ぶように促すようにする。
---	---------------	-------------------------------	--	---

自己調整により
お気に入りの1にさせた。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
--------	--------	------

8 本 時	基本文ト レーニン グ (Unit4)	発表準備 日本の学校生活やル ールについて考え、 ALTの先生に日本 の学校生活やルール を伝えることができ る。	<p>【話すこと（発 表）・（やりと り）】ペアマッピ ングをもとに簡 単な語句や文を 用いて、グルー プの中で考えを 共有することが できる。</p> <p>自己調整を図 り、自分の発表 を改善すること ができる。</p> <p>青ペンを使いこなし 思考の視覚化を 図っている。このマッピング の履歴が、次の单元で 生かせるようにする。</p> <p>キーワードを書き残した方が 聞くことで、関連した 質問をする力を育成する</p>	<p>事後課題：スピーチした内容を英文に起こす。 Teamsの課題機能を使って提出。また自分のマ ッピングを写真で撮って提出。</p> <p>⑪ふりかえり</p> <p>⑩ライティング</p> <p>■スピーチした内容を英語の文章にして、提 出をさせることにより、文法のエラーやスペル ミスなどの間違いを指摘することができる。こ の活動により、文章を組み立てる正確性を高め ることをねらう。</p> <p>⑨ペアを変更して再度ペアチャットを行う</p> <p>■ペアを新しくすることにより、先ほど自己 調整により改善したペアチャットを行い、関連 した質問をする質問力、より具体的な内容を伝 える力を育成する。</p> <p>⑧自己調整</p> <p>⑤のペアチャットで他者参照を行い、相手の 良いところを真似したり、言いたかったが言え なかった部分の練習を行う。その際、自分のマ ッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れ た生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。</p> <p>■マッピングに追加を行う前にマッピングの どこに追加するかを決めさせ、また何分必要か を示させる。青色でマッピングに追加をするの は、自分の思考の過程を視覚的に見ることに よって、ふりかえりや次のマッピングに生かすこ とができるため。この時間の確保により、自分の 本当に言いたかった・伝えなかった内容を自ら 習得できるようにさせる。この時間を一番大切 にしている。思考の広がりや深まりの訓練であ り、どんなトピックになっても深く思考ができ るようになることを目指す。</p> <p>⑦ペアチャットを行う</p> <p>作戦タイムを設けて、取り組ませる</p> <p>■iPadは使用可だが、単語のみを調べる。ま た原稿を作らせずに、相手に自分の意見を伝え る力を向上させる。ナンバリングを行い、マッ ピングをもとに順序だててスピーチを行う。ま た自分のマッピングの「相手の良かった点」の ところにメモを取りながら聞く。スピーチを聞 く側はマッピングシートに相手のスピーチのキ ーワードを書き出す。そのキーワードから相手</p>
-------------	------------------------------	---	---	--

生徒の考えの広がり
を机間指導中に広げ
O TE が質問をなが
かけることで、お互いの
考えの広がりにつなげ
させるため。

に関連する疑問文を作り、質問をしていく質問力を高めることを目的とする。

⑥ペアマッピングで質疑応答

ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。

■赤色にしておくことで、マッピングの思考の形を残す。赤色で残すのは他者参照の意味も含んでいる。つまり赤色で追加された情報は自分では思いつかなかった内容であり、相手の視点に気づききっかけとなっている。また細かな時間設定を行わず、机間指導の中でマンダラートが止まりかけた段階で、ペアでの活動に移る。これはテンポを保つことと、友達との意見の交換で思考の広がりを期待できるからである。

⑤選んだ内容を深めるマッピング

■キーワードのみで「なぜ選んだのか。」「それはどのようなものか。」「そのルールはどのようなものか。」を深めていく。

④ワン先生に教えたい学校生活・ルールを選び、丸で囲む。

③ペアマッピング（マンダラート）

A3のペアマッピング専用シートを利用

※テーマは「ワン先生に、教えたい太山寺中学校の学校生活」

■テーマを「What is important in a homestay?」から変えたのは、生徒がテーマを自分ごとととらえることができるため。9月よりワン先生が新しく太山寺中学校のALTの先生となり、まだ慣れない学校生活の手助けをすることで、自分たちの学校生活の良いところにも気づかせたい。マンダラートにしているのは思考の広がりを重要視し、その中から「1番にワン先生に伝えたい太山寺中学校の学校生活」について選ばせるため。

②Teachers' Talk

ALTとOTEがやりとりをする中で、ALTが日本に来てから驚いた生活習慣やマナーについて紹介する。生徒を巻き込む形でやりとりを行う。

■前時までに行ってきた内容を復習するため

			<p> ↙ 単に扱う、基本文 をずっと練習しているの なるべく多くの表現を 使うことで、復習も兼ねている。 </p>	<p> に行く。意識的に must や動名詞を使うことにより Unit4 で学んだ文法事項を再確認させる。 ①基本文トレーニング(Q and A Practice 6) ■生徒の課題である「質問力」を伸ばすために行う。日本語から英語に直すトレーニングをペアで行う。 </p>
				<div>主体的な学び</div> <div>対話的な学び</div> <div>深い学び</div>
7	3 択ペア チャット	<p>ALT の先生の出身国であるフィリピンの 1 日の学校生活についての話を聞き、日本の学校生活との違いをまとめる</p> <p>※実施後 この第 7 時はこの単元の中で一番の失敗をしました。本来なら生徒の思考の広がりや気づきを引き出すことを中心に据えるべきでしたが、最終スピーチを意識するあまり、4 人グループで待ち時間を少なく、かつ必要回数を聞くという構成にばかり意識がいき、生徒の思考が動く時間が少ないものでした。</p>	<p>【話すこと（やりとり）】</p> <p>ALT の先生にフィリピンの学校生活について、自分の考えを整理し、マッピングをもとに既習の表現を用いて質問することができる。</p>	<p> ALT の先生の出身の国の学校生活のルールやマナーについて聞き、日本の学校生活と違うところをメモする。 ⑤ふりかえり フィリピンと日本の学校生活における違いに気づかせる ④インタビュー マッピングと並行して ALT が各グループを回る。グループは 4 人編成。ALT が回ってきたら、フィリピンの学校生活について聞く。 ■4 人グループで 2 ラウンド行うことで最低 1 人 1 回質問することを目指す ③マングラート 全員が質問するようには。 フィリピンでの学校生活について ALT の先生に聞きたいことを書きだす。 ■マッピングは行わず、マングラートのみで質問に移る。これは基本文でトレーニングした応用で ALT の先生とのコミュニケーションをとってもらいたいという意図があった。 ②ALT からフィリピンにおける 1 日の学校生活についてパワーポイントを使って説明する。 ■パワーポイントで写真を提示しながら、学校への通学方法や授業でマナーを学ぶものが週に 5 時間あるなどの、日本にはない文化を説明することで、他の国の学校についての興味を駆り立てるようにデザインする。 ① 3 択ペアチャット 「What school events do you like the best?」 「①sports day」「②chorus contest」「③school trip」 </p>

				enjoy ~ing を使わせる。 ■ 3 択ペアチャットを選択しているのは、第 8 時のフィリピンの学校生活・ルールを伝える活動につなげるため。また既習事項の復習を兼ねる。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
6	基本文トレーニング (Unit4)	基本文テスト ※実施後 音読テストについては、以前もしていたこともあり意識高く臨むことができていました。QR コードを使い iPad で各自で練習の時間も確保できました。	【書くこと】 【聞くこと】	④ふりかえり ③音読テストのアナウンス ■Unit4 終了後、音読テストを行う。Wpm は前回同様 140 程度で取り組ませる。デジタル教科書を利用し、各自計測しながら練習をさせる ②音読練習 Unit 4 の音読練習。音のつながりや消失についても紹介する。 ■音読練習は音のつながりや消失などの細かな説明と、意味のかたまりを意識させ、教科書の音声を完全にマネができることが必要なことを伝える。また速さについても 140wpm をベースに時間設定を行う。 ①基本文テスト 基本文をベースに、ここまでの授業で習った表現をテストする。また 3 択ペアチャットで取り組んできた。I think ~ is important because…の形の 3 択英作文も出題する。 ■テストを組み込むことで、英語を書く正確性をあげる努力を家庭で行うことができる。 家庭学習をうながす。			
				<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
5	基本文トレーニング	日本での電車やバスにおけるルールや乗車マナーなどを伝えることができる。 ※実施後 自然とナンバリングを行う生徒・ナンバリングなしで敢えて挑戦する生徒が出てきた。	【話すこと（発表）・（やりとり）】 日本での交通機関のルールやマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝えることができる。	⑨ふりかえり ⑧グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチを行う。 ⑦自己調整 ⑥のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。 ■中間指導として、新しい ALT の先生に事前に聞いていた。フィリピンでは電車の列は日本			

			<p>のように線が引かれているわけではなく、自然と列ができている話を紹介する。そのことにより、常に自分たちの生活とフィリピンとの生活の比較をしていることに気づかせる。</p> <p>⑥グループでスピーチを行う</p> <p>作戦タイムを設けて、取り組ませる</p> <p>■作戦タイムについては、ナンバリングから順序だてて考えを伝えることができるようにする。そのことにより自らの考えを整理して伝える力が身につく。</p> <p>⑤ペアマッピングで質疑応答</p> <p>ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。</p> <p>■思考の過程を視覚化するのは2回目になるが、この視覚化によって次のマッピングの思考の広がりにつながり、自分が本当に伝えたいことを様々な視点から伝えることができるようになるメリットを必ず説明する。</p> <p>④ペアマッピング</p> <p>A3のペアマッピング専用シートを利用</p> <p>■マンダラート後にマッピングを行うのは、思考の深さを意識することで、トピックが学校生活に変わっても、思考のベースを作ることができるため。</p> <p>③マンダラート</p> <p>②Teacher Talk</p> <p>乗車中には電話がかかってきても出ない、もしくは後でかけなおす例を、生徒とのやり取りの中で引き出す。</p> <p>■ここには時間を多くかかえる。それはここでの発想や考えの広がり最終スピーチでの思考につながるため。</p> <p>①基本文トレーニング(Q and A Practice 6)</p>			
			<table><tr><td>主体的な学び</td><td>対話的な学び</td><td>深い学び</td></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				

4	基本文トレーニング (Unit4)	Unit 4 Read and Think 2	<p>【書くこと】</p> <p>教科書本文を読み、自分がホームステイをどこかの国でするとして、自分にとって必要なことを簡単な語句や文を用いて、書くことができる。</p>	<p>⑧ふりかえり</p> <p>⑦課題の提出</p> <p>Teamsにて課題を提出する。iPad 忘れについては、期限に猶予を持たせ、自宅で提出をさせる。</p> <p>⑥自分がどこかの国でホームステイをするとして、自分にとって必要となりそうなものについてペアで話をする。</p> <p>⑤本文の「純がホームステイの体験」について読んで、純が必要だと感じているものを英語で答える。</p> <p>■⑤と⑥は一見、単元の目標に関係のないトピックのように感じられるが、ALT のワン先生が日本で生活することの困り感を、自分に置き換えて考えることができるように促すことが目的である。</p> <p>④ペアでの音読練習</p> <p>音のつながりなどが正しく発音できているかをチェックする。速度も気にしてほしいので、ペアが時間を計測する。</p> <p>■140wpm で読むことを目標としているため、ペアで時間を計測させている。</p> <p>③教科書本文の音読練習</p> <p>音のつながりや消失を中心に指導する。</p> <p>②キーセンテンスの練習</p> <p>①基本文トレーニング</p> <p>■ここではペアでのやり取りの中で、即答できるトレーニングに変更する。回数を重ねる中で、レベルを上げて負荷を1段階あげている。</p>	
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び

3	基本文トレーニング (Unit4)	Unit 4 Read and Think I ※実施後 教科書の音声进行を聞かせた後に、ルーカスとヨナの質問に英語で答えさせた。ルーカスの質問にはホストファミリーをたたき起こす、家を抜けだして遊びに行くなどの自由な発想が出てきたのは収穫でした。	【書くこと】 教科書本文を読み、ルーカスとヨナが「どうすべきか」という悩みに簡単な語句や文を用いて、応えることができる。	⑦ふりかえり ⑥課題の提出 Teams にて課題を提出する。iPad 忘れについては、期限に猶予を持たせ、自宅で提出をさせる。 ⑤本文のルーカスの「What should I do?」ヨナの「What can I say?」に応える文章を作る。 ■ここで教科書の本文を利用しているのは、生徒の実態にもあるように質問力に課題があるため。質問力は聞いて答えるところまでがセットであると考えているので、状況にあった返答ができるようさせるという意図がある。 ④音読練習 関連する質問と答えを育成する。 音のつながりなどが正しく発音できているかをチェックする。速度も気にしてほしいので、ペアが時間を計測する。 ■140wpm で読むことを目標としているため、ペアで時間を計測させている。これはまだまだリスニングを苦手としている生徒が多く、速さを意識させることで、OTE と ALT の英語の速さについてくることができるようになることを意識しているからである。 ③教科書本文の音読練習 音のつながりや消失を中心に指導する。 ②キーセンテンスの練習 ■教科書の本文の必要なフレーズを一覧にまとめた。これは定期テストにかかわる話ではなく、それぞれのスピーチややりとりの中で使うことができるものを抽出するように心がけている。 ①基本文トレーニング	主體的な学び	対話的な学び	深い学び
---	----------------------	--	---	--	--------	--------	------

2	基本文ト レーニン グ (Unit4)	Unit4 Part1, Part2 ※実施後 生徒からは 「Why?」という質 問に「なぜダメなの かがわからない。」 などのこちらの考え ている困った反応が たくさんありまし た。授業の進みは悪 くなったものの、 「iPad」で調べて もよいかという声 が上がったため、計 画にはないが各自で 日本の文化について 調べる時間を設けま した。	【話すこと（発 表）・（やりと り）】 日本での食事での ルールやマナーに ついて、簡単な語句 や文を用いて、伝え ることができる。	<p>⑨ふりかえり</p> <p>⑧グループを変更して再度スピーチを行う 新しいグループに作り変え、再度スピーチ</p> <p>⑦自己調整 ⑥のスピーチで他者参照を行い、相手の良いところを真似したり、言いたかったが言えなかった部分の練習を行う。その際、自分のマッピングに青色のペンで追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に青色のペンを準備しておく。</p> <p>■青色のペンを使うことで、自己調整をした内容を明確化している。しかしここでは日本でのマナー、例えば橋渡しがいけないことは知っていても、なぜそれが良くないとされているかを考えるなど、日本でのマナーや文化について、日本人であるにもかかわらず理解していないことが多々あることに気づき、まず自分たちの日本の文化やマナーについて興味を持つことを大切にしている。 <i>ゆに気づくことにより</i></p> <p>⑥グループでスピーチを行う 作戦タイムを設けて、取り組ませる</p> <p>⑤ペアマッピングで質疑応答 ペアで質疑応答を行う。ペアから質問されたワードは赤色で追加する。ペンを忘れた生徒用に余分に赤色のペンを準備しておく。</p> <p>■赤色を使用させているのは、思考の過程を記録に残し、次回以降のマッピングにつなげるためである。</p> <p>④ペアマッピング A3のペアマッピング専用シートを利用</p> <p>■ペアマッピングは他者参照のしやすさ、ペアチャットの行いやすさを重視したことから新たに2学期から取り組んでいる。まだ多く回数はこの時点ではできていないため、ペアマッピングを行う目的を伝える。</p> <p>③マンダラート 日本で食事をするときの「しなければならないこと」「してはならないこと」について思考ツールを使って、考えを広げる。</p> <p>■このトピックの設定理由は、一番最初のALTの先生の自己紹介の授業の中で食事の話が多く、日本の食生活についての言及が行われていたため、最終学校生活やルールなどを伝える</p>
---	------------------------------	--	---	---

				<p>ことが目標であるからこそ、一番タイムリーな話題を設定した。</p> <p>②Teacher Talk</p> <p>日本で生活をする ALT の先生に、「日本ではしなければならないこと」「してはならないこと」を紹介しながら must, must not, have to, do not have to をバランスよく使う。</p> <p>■must などの文法事項を強調して何度も使うことで、生徒がこの Unit で使うフレーズが何にあたるかを意識させることが目的である。</p> <p>①基本文トレーニング</p> <p>■文法事項のベースとなる基本文のトレーニングを行う。この基本文のトレーニングを通して文法事項の定着を図る。今後の授業に関連付けているのでそれぞれの授業で何度も扱うことで、即答できるようになることを目指す。</p>			
				<table><tr><th>主体的な学び</th><th>対話的な学び</th><th>深い学び</th></tr></table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び					
I	基本文トレーニング (Unit4)	Unit Question スピーチ ルーブリック 単元・学習内容		<p>⑤単元の目標、学習内容の紹介</p> <p>④最終スピーチとルーブリックの説明</p> <p>③Unit Question の紹介</p> <p>What is important in a homestay?が教科書の単元を貫く問いになっているが、What are the differences between school life in Japan and Philippines?に変更し、ALT の先生に日本の生活について伝えていく単元だということを紹介する。</p> <p>■最初に単元の目標を紹介することで、最終目的地を意識させること目的としている。またトピックの設定は上述しているが、単元のトピックをいかに「自分ごと」にできているかを授業計画段階で大切にしている。生徒が伝えたいと思える内容になるように努めている。</p> <p>②Teacher Talk</p>			

				<p>日本とアメリカの生活様式の違いの例を出す</p> <p>■事前に聞いていた前 ALT のジョイス先生の住むシアトルの話をする事で、太山寺中学校と他の国の違いに興味を持たせることを意識している。</p> <p>①基本文トレーニング</p> <p>単元の最後まで使う基本文をまとめて出す。</p> <p>■ここでは必要最低限の説明にとどめる。それは今後、英語を使っていく中で定着を図りたいという考えがある。</p>
				<div>主体的な学び</div> <div>対話的な学び</div> <div>深い学び</div>